

# 神社の祭典

## 神社の祭典カレンダー (山中地区)

### MAP

- 4月10日 ⑤金刀比羅宮祭典
- 4月15日 ⑥九郎貴神社祭典
- 5月5日 ①浅間神社例大祭
- 5月17日 ⑨白観音祭
- 9月1日 ⑦諏訪神社奥宮祭
- 9月4日 ②諏訪神社例大祭  
～ 6日
- 9月29日 ⑧加古坂神社祭典
- 10月10日 ⑤金刀比羅宮祭典
- 11月15日 ①浅間神社七五三祭典
- 12月8日 ④厄神社祭典
- 12月31日 ①浅間神社大祓式
- 1月1日 ①浅間神社歳旦祭
- 1月17日 ⑩山之神社祭典
- 2月3日 ①浅間神社節分祭
- 2月初午 ③稻荷神社祭典
- 2月8日 ④厄神社祭典



①山中浅間神社  
山中湖村は山中地区の氏神様として三柱の神（木花開耶姫命、天津彦彦火瓊杵尊、大山祇命）をお祀りする神社です。地域、氏子区民の生活の安寧を願いお見守り下さる神社です。



④厄神社  
厄神社とは不思議な名前の神社だが、平安時代中期に連島宮之壇という所に来た「薬神宮」が始まりといわれ、その後、「疫神宮」「厄神宮」と称され、明治になって「厄神社」と改称。  
災難防護、病氣平癒、産業繁栄、文芸、学問の神として知られており、その御神徳を仰ぎつつ、更に現在では厄除祈願、安全祈願等が盛んに行われている。



⑥九郎貴神社  
宝永4年（1707）の富士山の大噴火、死者・行方不明者合わせて2万人以上の犠牲者を数えた宝永大地震等が起こる。天明2年から7年（1782～1787）にかけ、天明の大飢饉が起こり、天明3年には死者2千人以上と云われる浅間山の大噴火があり、天明4年3月勅命によって、山城守藤原右京に「九郎貴様」を奉持させ京都を旅立たせた。右京は各地の神社仏閣を加持祈禱しつつ富士に辿り着き、富士山周辺を歩いた後、山中部落に逗留することとなった。右京は早速、富士溶岩流の先端（現在地）に小祠を建て「九郎貴様」を奉祀し、天児屋根命の故事に倣い、団扇太鼓にお題目を唱え、ひたすら富士の鎮静と、五穀豊穡を祈願したと伝えられている。

⑦諏訪神社 奥宮  
山中諏訪神社の奥宮は本社対岸の明神山（鉄砲木ノ頭）山頂に鎮座しております。  
9／1は祭神、豊玉姫命の降臨を願い奥宮祭を行っています。



⑧加古坂神社  
加古坂神社は山中湖から御殿場へ抜ける籠坂峠に位置し、藤原光親（葉室光親）を祀っています。藤原光親（ふじわらのみつちか）は承久の乱（承久3年）のとき、後鳥羽上皇が北条氏の討伐の企てに際し、藤原光親卿は極力時期尚早を上奏しましたが聞き入れられず、義時追討の案文を書く。謀議はいち早く鎌倉にもれ、謀議に参加した光親卿は捕われの身となり、甲斐武田五郎信光により、鎌倉護送の途中の籠坂峠において斬首された。



③出口稻荷神社  
霊験あらたかな五穀豊穡、商売繁盛の神として、旧山中村の北の出口である現在地に「正一位山中出口稻荷神社」と命名、小祠を造営しました。「稻荷様」は、里人はもとより、近郊近在の多くの人々に信仰も厚く崇拝されております。



⑤金刀比羅宮  
五穀豊穡、産業振興、医術、技芸、文化の向上、更に人々の平安を約束する神さまをお祀りする。特に漁業振興、航行安全にご利益があると云われ、従古より湖と共に生き、湖の恩恵を受けてきた里人はそのご利益を願い感謝の念をもって江戸時代、讃岐の金刀比羅宮に勧請し、湖を一望できる現在地に小祠を建て航行安全、豊漁を祈願してきました。

⑨白観音  
旧鎌倉往還の西側出口、通称白観音の尾根の頂上に鎮座し、部落民の旅の安全祈願場所として、また三米弱の尾根は防壁の役目もなし、外敵、動物の侵入防止、疫病阻止の役目も果たしていたと思料されます。



⑩山之神社  
山中の富士登山道の沿道に大山祇神（オオヤマツミノカミ）をお祀りし、昔は多くの村人の信仰を受けてきましたが、現在は山仕事をしている人たちが毎年1月17日に集まって山の神講をひらき、山の神に感謝と安全を祈願しています。